

第 8 回多治見市役所新庁舎検討市民委員会 会議録	
日 時	令和 4 年 9 月 26 日（月）午後 3 時 00 分～午後 4 時 47 分
会 場	多治見市役所本庁舎 2 階大会議室
出席委員	小林甲一委員（委員長）、柴田錦見委員（副委員長）、佐藤喜好委員、原國夫委員、佐々木千裕委員、堀尾憲慈委員、今枝寛彦委員、小口英二委員、西尾英子委員、竹本幸二委員
欠席委員	加藤恒文委員、坂崎雄介委員
事 務 局	仙石総務部長、福田総務課長、若林課長代理、石田主査、佐藤主任、堀尾建築住宅課長
傍 聴 人	3 名
報道機関	4 社
会議結果 要旨	
1. 市議会において新本庁舎の位置が決定されたことを受け、これからの議論に向けて振り返りを行った。 2. ネットワーク型コンパクトシティ、交通渋滞、駐車場、公共交通機関、ICT 技術の活用等について意見が出された。 3. 次回はワークショップを行い、基本構想に関するコンセプトやキーワードを見つけることとした。	
会議録 要旨	
1 総務部長挨拶	
2 議事 委員長	市民委員会では、新庁舎の位置が決定していない状況の中、新庁舎をイメージしながら議論を行い、中間報告を提出することができた。その後、市議会において新庁舎の位置が決定されたことを受け、今回の委員会はリスタートの 1 回目と位置づけたい。これまで議論してきたことを振り返りながら、次のステップへ進んでいく。
（1） 前回からの動きについて（報告）	
ア 令和 4 年度地区懇談会について	
イ 多治見市役所の位置を定める条例の一部改正に係る市議会の議論について	
ウ 市議会実施の本庁舎建設に向けたアンケートについて	
事務局	（資料 1、2、3 について説明）
委員長	質問はあるか。
委員	市議会実施のアンケートについて、回答数はどれくらいか。
事務局	市議会から、直近の回答数は 822 通、目標回答数は 1000 通ときいている。
（2） これからの議論に向けた振り返り	
ア 多治見市の将来像について	
委員長	中間報告の内容を基にこれまでどのような議論が行われてきたかを振り返り、今後の議論の参考としていただきたい。
事務局	（資料 4、5 について説明）
イ 新しい庁舎について	

委員長	本庁舎を駅北庁舎隣接地に移転し、駅北庁舎と連動して使用することにより、新しい市庁舎体制ができる。本庁舎を建替えた「新庁舎」と、新庁舎及び駅北庁舎を一体とする「新庁舎体制」を意識して考えていく必要がある。
事務局	(資料6について説明)
委員長	中間報告の内容に係る議論はこれで終了ということではなく、基本構想に十分反映されるものと理解している。例えば、この委員会で意見の出された「おもいやり駐車場」の設置は、当初の市の方針に修正をかけた。意義深いことだと思う。 せっきくの機会であるので、もっと強調したいこと、言い足りないこと、これからの議論にむけて重要だと感じている視点等あれば自由に意見質問を出す場としたい。
委員	ネットワーク型コンパクトシティ（連携型集約都市）の具体像がみえない。庁舎の移転等で中心拠点の活性化は進んでいくと思うが、地域拠点の活性化に関する具体的な提案をききたい。 生産性の向上とコストの削減について、ICT等を活用してこれから大きく進んでいくと思うが、現在検討していることも含めて具体的な取り組みを知りたい。
事務局	地域拠点の活性化について、中心拠点は駅周辺の地域を指しており、庁舎を含め建物施設等があり、整備が目に見えてわかりやすい。対して地域拠点は、特定の建物施設等を整備してにぎわいを形成していくものとはとらえていない。あるエリアを地域拠点として、官民含めた機能の誘導を図っていき、にぎわいを形成していく。市の施設整備を行うとき、地域拠点に近いところに建てる、交通政策の中でのどのように位置付けていくかが主な取り組みである。 生産性の向上とコストの削減について、今年度から情報課を中心として力を入れ、DX推進にむけて取り組みはじめた。コロナ禍において、リモート会議は普及してきた。押印廃止は行ったが、事業者の方のオンライン申請には至っていない。来庁の必要性の削減は、これから取り組んでいけるところだと考える。
委員長	地域拠点の具体像の提示はなかなか難しいところではないか。例えば、駅を中心として半径500m以内の範囲で、自家用車の交通量は何台で、そこから何台減らしていくか、そのために公共交通機関をどのように整備していくかというような具体的な案が出てくるとよいのではないかと思う。
委員	ネットワーク型コンパクトシティの形成について、市内のさまざまな委員会等に出席すると、関心が高く注目されているところだと感じる。そのことを意識して意見を交わしていきたい。 駅及びイオン周辺の渋滞を心配する声もよくきく。渋滞問題も考えていく必要があると思う。 新庁舎について、虎溪用水広場を活かした人の寄りやすい場所にしたい。しかし、立体駐車場から新庁舎まで遠いという声もきく。遠いというイメージを解消する方策として、駅南再開発の駐車場を活用することで南北の往来がしやすい環境をつくっていくことも重要だと思う。 駅周辺には民間駐車場があるが、せっきくの駅周辺の土地を来庁者用駐車場にしてし

	まうのはもったいない。また、来庁者用駐車場をあらたに整備しないことにより、駐車場の需要が高まり駅周辺の民間駐車場が増えてしまうのはもったいない。そういったところも含め、地域の方と連携してまちづくりを考えていきたい。
委員	駅北庁舎地下駐車場を「おもいやり駐車場」とすることによって、子どもを連れた方が、駅北庁舎3階で子どもを遊ばせながら保健センターで相談できる環境を、新庁舎建設後も維持できるのがよい。 ICTを活用して、来庁の必要性のない仕組みづくりを進めてほしい。事業者はあまりにぎわい形成の役割も果たさないとと思う。事業者が市に来庁する回数が減り、必要な人が駐車場を利用できるようになるとよい。 駅北庁舎に来庁する際、駅南から来る人は大踏切を渡るのに時間がかかるため、駅南の駐車場を使用している人がある。駅南の駐車場も上手に活用していけたらよい。
委員	他市の新庁舎を訪れる機会があり、庁舎のコンセプトとして2つのパターンがあると感じた。職場としての新しい市庁舎がある一方、カフェがテナントとして入り学生等が勉強をしている図書館のような役割をはたしている市庁舎もあった。現在、多治見市は虎渓用水広場に学生が集っている。今後は駅南再開発による新施設、新庁舎、虎渓用水広場の中で一番快適なところに人が流れていくと思う。それぞれがどういう役割を果たすのか考えていく必要があるのではないかと思います。 新庁舎を市街地の象徴となる施設とするには、象徴となる建物にするという目的をもって建設を計画していく必要がある。何かあれば市役所に相談に行く、市役所を過ごす場所として使うというようなイメージをつけていくことで象徴になっていくと感じた。 駅北は、自転車で訪れにくいエリアであると感じている。環境配慮のため自転車を使う人が増えてきているが、自転車を駐車する場所に迷い、自転車が虎渓用水広場に放置されているところを見かける。来庁者用駐車場の過不足が議論されているなか、代替交通手段の一つである自転車を使った人が訪れやすいよう、駐輪場も整備していく必要があるのではないかと。
委員長	基本構想としてハード、フロアの利用を考える前に、コンセプト、具体的なイメージを共有できるよう基本構想を具体化していく必要がある。駅周辺、まちの中心部に庁舎を移転することの意味を踏まえた上で考えていく必要がある。 市庁舎といえば、高齢の方が多く訪れているイメージがあるが、学生、子育て世代の若い人たちが集っている庁舎も見たいという気持ちがある。あるいは、他市在住の人が電車の乗り換え等で市庁舎を訪れ、多治見を魅力的だと感じて移住定住者が増えるようなまちを目指していくべき。 駅周辺に公共施設を建設してがらんどっているところもあり、難しい側面もある。せつかく建て替えるなら思い切ったコンセプトをもち、市民が加わり一緒に考えて動いていくようになればよいと思う。
委員	ネットワーク型コンパクトシティの形成について、若い世代の人の意見を取り入れてフレッシュな感覚で進めていくことが大事だと感じている。一方で、運転できなくなった高齢の方が増え、どういうまちになっていくか考えたとき、公共交通機関が重要になる。しかし、現在の多治見市では、公共交通機関を利用するイメージがしづらい。

	現在、「よぶくるバス」というものが実証実験で走っている地区がある。すきな時間に自宅まで来る、料金が安価であるということもあり、周囲の反応はとてもよい。このような実証実験等も具体例に入れ、新庁舎建設後のイメージを抱いてもらうことも大切ではないかと思う。 新庁舎の建設を通して、まちづくりに自分たちもかかわっていく、一緒につくっていくという気持ちを高齢の方や学生の方にもってもらい、相互に影響し高めあっていくとよいと思う。
委員	駅北庁舎 1 階に、死亡後の手続きが一つの窓口で完結する白菊コーナーというものがあり、非常によかったという声をきく。今後、他のどのような手続がワンストップ化できるのか検討していきたい。 パブリックコメント等で市民の声を聞くことも必要だと思う。 ICT の活用で来庁の必要性を減らすことについて、整備には時間と費用がかかる。また利用する側に高齢者が増えている。そういうことも考えて進めていってほしい。
委員長	駅北庁舎は、雑然とした本庁舎から分離しコンパクトな庁舎として建設され、評判もよいときく。今回は、新庁舎の建設により 2 棟体制となるが、広くなりよいかというと、かえって運用が難しくなるのではないかと。駅北庁舎の良さを消さないよう、より良くなるように考えていく必要がある。
委員	美濃焼を PR、販売できる場所が庁舎も含めた駅直結の場所にあるとよいと思う。 現本庁舎が駅北へ移転すると、FMPiPi のオフィスから離れ、災害時の連携が難しくなるのではないかと懸念がある。新庁舎に FMPiPi のサテライトオフィスがあると、観光、災害情報の連携がより良くなるのではないかと。
委員	今日、旭ヶ丘から公共交通機関を使って本庁所まで来た。自家用車では 20 分かかる。駅北経由のバスに乗り、自宅付近のバス停から駅北庁舎まで約 20 分。駅北から本庁舎まで徒歩約 15 分。全体で約 35 分。自家用車の場合にかかる時間約 20 分と比較して、大きく時間がかかる訳ではない。地域によっては路線バスの整備がないところもあると思うが、「よぶくるバス」やタクシーをうまく利用してもらうことにより、公共交通機関での来庁を促していければよい。 「おもしろい駐車場」について、子ども連れの方や高齢者の方、ハンディキャップのある方には、地下駐車場より平面駐車場が使いやすい。そういった方が利用しやすい平面駐車場の整備も考えていけたらよいと思う。
委員	現在の 2 庁舎体制では、職員間の協議等に時間を要することが課題としてあがっていた。移転により 2 棟体制となることで、連携がとりやすくなることは大事なことだと思う。公共交通機関の整備や DX 化、駐車場、災害対応について考えていくことも大切である。 委員会の中でよく出てきた言葉である SDGs とは、国連サミットで採択された 17 の目標である。ここでは主に環境としての意味で使用されていると思うが、あえて SDGs という表記が必要か確認した方がよいと思う。
ウ 新庁舎とまちづくりプラン	

事務局	(資料7について説明)
委員長	質問はあるか。
委員	なし
(3) 基本構想の策定に向けた今後の流れ	
事務局	(資料8について説明)
委員長	質問はあるか。
委員	なし
委員長	事務局から説明があった通り、次回の委員会はワークショップ形式で開催する。理由として、事務局から基本構想案が提出されるにはまだ早いこと、会議形式であると自由な意見が出しづらいことがある。新庁舎、新庁舎体制に集中した議論を行い、コンセプト作成のきっかけとなる時間をつくりたい。委員会としてこれだけはこのコンセプトの方向性を出せば、よい役割を果たせると思う。そのためにざくばらんな議論をする場が必要であるという事で提案した。
事務局	(次回のワークショップについて、追加資料の配布)
委員長	(追加資料の説明) ワークショップは自由に意見を出しやすい場とするため、非公開としたい。ワークショップの結果は次々回の委員会で公開する。 ワークショップのテーマについて、資料記載のものに対する修正や、追加等あれば意見を伺いたい。
委員	テーマは、①まちづくりと本庁舎②利用者にとっての本庁舎で十分だと思う。庁舎の機能面について話もできればよい。
委員長	テーマ③は限定しないという趣旨でよろしいか。それとも、テーマ①②以外は必要ないということであればそれでよい。
委員	テーマ③は、遊びを持たせ、例示されている多世代交流、市民参加、子育て等そのまま自由に意見を出し合ってもよいのではないか。いろんな意見をだすのが目的のひとつであれば、テーマを設けないグループがあってもよいと思う。
委員長	それもよいかもしれない。
委員	各グループに職員が入るのは賛成である。所属課を限定しなくてもよいのではないか。世代も幅広く参加を希望する職員を募ってはどうか。
委員長	事務局と相談し、ある程度知識をもった職員ということで、総務課、都市政策課、建築住宅課の職員としたが、柔軟に考えてもよいかもしれない。事務局で検討願う。
事務局	検討する。
委員長	グループメンバーは委員長と事務局で決定する。委員の提案である、型にはまらず意見を出すというのは良いと思う。今日振り返った内容を覚えておいていただき、ワークショップに繋げてほしい。
3 その他	
委員長	全体を通して意見はあるか。

委員	先ほど、ネットワーク型コンパクトシティの地域拠点について、市として考えがあればと事務局に伺った。個人としては多治見市はすでに十分コンパクトシティだと思っている。東濃5市をみても、多治見市と比較して人口が少ないが面積は3倍くらい広い市がある。県内市町村をみても、多治見ほど平地がまとまっているところはない。東西方向30分、南北方向1時間くらいで移動できる。これを踏まえ、あらためて何かをする必要はないと思う。
委員長	委員の言った通り、多治見市は地理的にはすでにコンパクトシティである。しかし課題が2つある。1つ目は、コンパクトなまちであるにもかかわらず市民の移動が車に偏っていること。2つ目は、まちとして一体と言いながら川南と川北、駅南と駅北で分断されてしまっており、繋がりが悪いということ。この課題をクリアにしていけばまちが変わっていくと思う。そういう意味では、新庁舎が駅北に移転することは大きなことであり、駅南再開発も含め、まちとしてあたらしい段階に入ってきた。そのなかでコンパクトシティを考えていく必要がる。
委員	「よぶくるバス」は人工知能を搭載していて、自動でルートを設定してくれる。ICT革命により私たちが夢のように思っていることが、意外と数年後には実現化するかもしれない。そういうことも含めてまちづくりを考えていけるとよいと思う。
委員長	新しい建物のコンセプト、2棟体制でのコンセプトについて、次回のワークショップに向けて少し考えていただき、次回のワークショップが有意義なものになればと思う。
4 次回以降の日程	
事務局	次回の日程について、10月14日（金）午後3時00分から産業文化センター3階大会議室で開催を予定する。それではこれで本日の会議を終了する。